

「国債振替決済制度の参加者口座および顧客口座の開設基準ならびに間接参加者および外国間接参加者の承認基準」中一部改正

- 別紙中の表を横線のとおり改める。

		基準	
		申出者が既に初回の決算を行っている場合	申出者が初回の決算を行っていない場合（申出者が新たに営業を開始しようとする場合を含む。）
参加者または間接参加者となることを希望する旨申出た者	銀行（銀行法（昭和 56 年法律第 59 号）第 47 条に規定する外国銀行支店を除く。）、長期信用銀行、農業協同組合、農業協同組合連合会、漁業協同組合、漁業協同組合連合会、水産加工業協同組合、水産加工業協同組合連合会、信用協同組合、協同組合連合会、信用金庫、信用金庫連合会、労働金庫および労働金庫連合会	<p><u>(1) 直前の決算期末（中間期末を含む。）の連結および単体自己資本比率（注¹）が、国際統一基準が適用される者にあつては 8%以上、国内基準が適用される者にあつては 4%以上であること。</u></p> <p><u>(2) 申出者の親会社が銀行持株会社である場合には、(1) に加え、直前の決算期末（中間期末を含む。）の銀行持株会社の連結自己資本比率（注²）が、第一基準が適用される者にあつては 8%以上、第二基準が適用される者にあつては 4%以上であること。</u></p>	申出者が申告する開業後 3 年間の決算期末（ <u>年度決算に限る。</u> ）の <u>連結および単体自己資本比率（注¹）の見込み計数</u> が、各決算期末において、 <u>国際統一基準が適用される者にあつては 8%以上、国内基準が適用される者にあつては 4%以上であること。</u> 左の <u>(1) および (2) に定める基準を満たしていること。</u>
	銀行法第 47 条に規定する外国銀行支店	直前の決算期末（中間期末を含む。）の自己資本比率（注 ³² ）が 8%以上であること。	申出者が申告する開業後 3 年間の決算期末（ <u>年度決算に限る。</u> ）の自己資本比率（注 ³² ）の見込み計数が、各決算期末において、8%以上であること。
	金融商品取引法第 2 条第 9 項に規定する金融商品取引業者（同法第 28 条第 1 項に規定する第一種金融商品取引業を行う者に限る。）	<p><u>(1) 直前の決算期末（中間期末を含む。）の単体自己資本規制比率（注⁴³）が 140%以上であることを超えること。</u></p> <p><u>(2) 申出者が金融商品取引法第 57 条の 2 に規定する特別金融商品取引業者の場合において、その親会社が同法第 57 条の 12 に規定する最終指定親会社であるときは、(1) に加えて、イ. 直前の決算期末（中間期末を含む。）の連結自己資本規制比</u></p>	申出者が申告する開業後 3 年間の決算期末（ <u>年度決算に限る。</u> ）の自己資本規制比率（注 ⁴³ ）の見込み計数が、各決算期末において、 <u>左の (1) から (3) までに定める基準を満たしていること 140%を超えること。</u>

		<p>率^(注5)が8%以上であること、または、ロ. 直前の決算期末(中間期末を含む。)の連結自己資本規制比率^(注6)が140%以上であること。</p> <p>(3) 申出者が金融商品取引法第57条の2に規定する特別金融商品取引業者の場合において、その親会社が同法第57条の12に規定する最終指定親会社でないときは、(1)に加えて、直前の決算期末(中間期末を含む。)の連結自己資本規制比率^(注7)が140%以上であること。</p>	
	保険業法(平成7年法律第105号)第2条第2項に規定する保険会社	直前の決算期末(中間期末を含む。)の保険金等の支払能力の充実の状況を示す比率 ^(注84) が200%以上であること。	申出者が申告する開業後3年間の決算期末(年度決算に限る。)の保険金等の支払能力の充実の状況を示す比率 ^(注84) の見込み計数が、各決算期末において、200%以上であること。
	法第2条第2項に規定する振替機関(日本銀行を除く。)	直前の決算期末(中間期末を含む。)における財産の状況が、法に基づいて申出者に適用される財務の健全性基準を満たすこと。	申出者が申告する開業後3年間の決算期末(年度決算に限る。)の財産の状況の見込みが、各決算期末において、法に基づいて申出者に適用される財務の健全性基準を満たすこと。
	金融商品取引法第2条第29項に規定する金融商品取引清算機関および資金決済に関する法律第2条第6項に規定する資金清算機関	直前の決算期末(中間期末を含む。)における申出者の財産の状況に照らし、申出者がその業務を健全に遂行することが困難と認められる特段の事情がないこと。	申出者が申告する開業後3年間の決算期末(年度決算に限る。)の財産の状況の見込みを照らし、申出者がその業務を健全に遂行することが困難と認められる特段の事情がないこと。
外国間接参加者	母国において「自己資本の測定と基準に関する国際的統一化」(昭和63年7月バーゼル銀行監督委員会)または「自己資本の測定と基準に関する国際的統一化:改訂された枠組」(平成16年6月	直前の決算期末(中間期末を含む。)の自己資本比率 ^(注95) が、申出者の母国において申出者に適用される法令の基準を満たすこと。	申出者が申告する開業後3年間の決算期末の自己資本比率 ^(注95) の見込み計数が、各決算期末において、申出者の母国において申出者に適用される法令の基準を満たすこと。

<p>となることを希望する旨申出た者</p>	<p>バーゼル銀行監督委員会)に基づき定められた法令による規制の適用を受ける者</p>		
	<p>母国において「自己資本の測定と基準に関する国際的統一化」(昭和63年7月バーゼル銀行監督委員会)または「自己資本の測定と基準に関する国際的統一化:改訂された枠組」(平成16年6月バーゼル銀行監督委員会)に基づき定められた法令による規制の適用を受けない者 (注106)</p>	<p>直前の決算期末(中間期末を含む。)における財産の状況が、法第44条第1項第13号に規定する免許又は登録その他これに類する処分に関して申出者に適用される財務の健全性基準を満たすこと。</p>	<p>申出者が申告する開業後3年間の決算期末の財産の状況の見込みが、各決算期末において、法第44条第1項第13号に規定する免許又は登録その他これに類する処分に関して申出者に適用される財務の健全性基準を満たすこと。</p>

(注1) 申出者が属する業態にかかる各業法に基づき算出された連結および単体自己資本比率をいう。

(注2) 「銀行持株会社が銀行持株会社及びその子会社の保有する資産等に照らしそれらの自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準を定める件」(平成18年金融庁告示第20号)に基づき算出された連結自己資本比率をいう。

(注32) 申出者の母国において「自己資本の測定と基準に関する国際的統一化」(昭和63年7月バーゼル銀行監督委員会)または「自己資本の測定と基準に関する国際的統一化:改訂された枠組」(平成16年6月バーゼル銀行監督委員会)に基づき定められた法令による規制であって、申出者が現に適用を受けるものにより算出されたものとする。申出者の母国において当該法令による規制が存在しない場合には、銀行法に準じて算出されたものとする。

(注43) 金融商品取引法第46条の6第1項に規定する自己資本規制比率をいう。

(注5) 「最終指定親会社及びその子法人等の保有する資産等に照らし当該最終指定親会社及びその子法人等の自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準を定める件」(平成22年金融庁告示第130号。以下「川上連結告示」という。)第2条および第3条に基づき算出された連結自己資本規制比率をいう。

(注6) 川上連結告示第4条に基づき算出された連結自己資本規制比率をいう。

(注7) 「特別金融商品取引業者及びその子法人等の保有する資産等に照らし当該特別金融商品取引業者及びその子法人等の自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準を定める件」(平成22年金融庁告示第128号)第2条に基づき算出された連結自己資本規制比率をいう。

(注84) 保険業法第130条に規定する保険金等の支払能力の充実の状況が適当であるかどうかの基準にかかる算式により得られる比率をいう。

(注95) 申出者の母国において「自己資本の測定と基準に関する国際的統一化」(昭和63年7月バーゼル銀行監督委員会)または「自己資本の測定と基準に関する国際的統一化:改訂された枠組」(平成16年6月バーゼル銀行監督委員会)に基づき定められた法令による規制であって、申出者が現に適用を受けるものにより算出されたものとする。

(注106) 申出者の母国において当該法令による規制が存在しない場合を含む。